

# 日立の地域環境学習に関する研究

○石川 勉<sup>A</sup>, 山本 勝博<sup>B</sup>, 利安 義雄<sup>B</sup>

ISHIKAWA Tsutomu, YAMAMOTO Katsuhiko, TOSHIYASU Yosio

日立市立多賀中学校<sup>A</sup>, 茨城大学<sup>B</sup>

【キーワード】環境教育, 地域環境, 人材活用, 日立

## 1 はじめに

環境教育は総合的な学習の時間で取り組む学校が多いが、まだ十分な取り組みがされていない学校も多い。環境教育はすべての教科で行うこと、教科横断的に取り組むことが望ましいとされているが、まずは行うことが大切であり、そのためには選択理科で行うことが容易である。理科は環境について理解する上で中心的な教科である。理科で環境について学ぶことで、理科で学んだことが生活に関連しているのだということを感じ、理科を学ぶことの有用性も高められると考えた。

## 2 研究の目的

- ・環境教育に対する意識を高め、環境問題の現状や背景を理解し、自ら考え行動できるようにする。
- ・理科で学習したことがどのように社会や生活に関連しているのかに気づかせ、理科を学習する有用感を高める。

## 3 研究の構想

環境教育の基本は、地球規模で考え、身近な地域から行動することである。理科教育でも、日常生活の中での事物現象と結びつけたり、身の回りの身近な自然から学ぶことが大切とされている。生徒が生活している地域について理科学習、環境学習の面から取り上げることで、自然を科学的に調べる能力の育成や基本的な概念の形成が無理なく行えるようになると考えている。

## 4 研究の内容

中学校第3学年選択理科(週1回・18回)

を活用して、授業を实践する。

### 1学期 「地域環境をいかした理科学習」

工業都市の発展の歴史という地域素材に、理科の各単元を結びつけた理科学習を行う。日立製作所の最初の製品である5馬力モーターと「電流とその利用」、日立鉱山の鉱物と「大地の変化」、大煙突と「天気とその変化」。小学生の頃から学んできた日立の街の発展の歴史と、教科書にのっている理科の学習内容とが結びつくことで、学習したことが、教科書の中だけでなく、実生活に関連しているのだと結びつけて考えることができるようになり、興味や関心が深まり、理解にも結びつくと考えた。学ぶことのおもしろさや、理科学習の有用感が高まると考えた。

### 2学期 「地域をいかした環境学習」

「日立市は煙害を克服してきた街」として、環境教育に取り組む。地域の人材、施設を活用することで、環境の問題が自分たちの生活に身近な話題であることを強く意識付け、自ら行動に移せるような取り組みを目指す。

## 5 日立市の概要

日立市は、東は太平洋、西は阿武隈連峰から連なる山地、南は関東平野と、海・山・平地と豊かな自然に恵まれた茨城県北部の中核都市である。明治から大正期にかけ日立鉱山、日立製作所の発展とともに大きくなった工業都市である。かつて、銅鉱山からの煙害問題が起こったが、地域と企業が協力して克服したという歴史がある。